

第 9 期 会長就任挨拶

危険物保安技術協会 山田 實 (1976 年卒)



この度、6月28日(土)に開催されました第9期通機会総会で会長に選任されました。寺井一郎前会長から引き継ぎ今後4年間の通機会を、副会長の結城宏信先生(1989年卒;電気通信大学)、中野禅様(1987年卒;産業技術総合研究所)及び学内外の幹事の皆様方と連

携しながら通機会の発展のために努力して参りますのでよろしくお願ひ申し上げます。

まずは、自己紹介をさせていただきます。1974年に機械工学科に編入学し、修士課程修了後、当時皆川七郎先生と本間恭二先生がおられた固体力学講座の助手として5年間お世話になりました。その後、消防庁消防研究所(現在の消防研究センター)に移り、大型石油タンクやガソリンスタンドの地下タンクなどに代表される危険物施設等の安全性、特に耐震強度と腐食等に関する研究を行ってまいりました。現在は、危険物等の消防法に基づく保安の確保を図ることを目的とする認可法人である危険物保安技術協会に勤めております。

消防研究センターでは、地震時による被害を受けた危険物施設の調査あるいは爆発・火災を引き起こした設備の原因調査を数多く体験しました。東日本大震災においては、火災事故を起こした危険物施設だけでなく日本海側での被害調査にも参加し、その被害が広範囲に及んでいることにたいへん驚かされました。また、消防庁という行政機関の研究所という立場から法工学にも強い関心を持ったことから横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センターの

客員教授も務めさせていただいております。

最近、化学工場の爆発・火災事故が多発していることが大きな社会問題として取り上げられています。これらの事故は緊急シャットダウン、スタートアップや設備の保守作業中など、いずれも「非定常作業」で発生しており、その原因や背景として「リスクアセスメントの内容・程度が不十分」、「人材育成・技術伝承が不十分」及び「情報共有・伝達の不足や安全への取組の形骸化」の3点の共通点があげられています。関係学協会等では、「安全文化の醸成」をキーワードとした講習会やセミナーが数多く開催されており、今後の安全管理が活発に議論されています。これらの事故調査において、企業内のコミュニケーション不足が原因の一つとしてあげられることがあり、私個人的には電通大の得意とする electro communication が解決の糸口となるのではないかと期待しています。

さて、総会では寺井前会長から現状の新規入会率が非常に低く、この状況が続くと今後の通機会運営において財政的な大問題が生じることが述べられ、第9期において在校生、特に1年生の入会率が100%に達するようことの申し送りがありました。大変な時期に会長をお受けしたと思いましたが、寺井前会長が実施されてきました在校生への就職支援活動をさらに充実させ、一人でも多くの在校生が通機会へ参画してもらえるように努力する次第です。また、就職支援活動だけでなく入学早々の1年生にも通機会に興味を持ってもらえるような活動も企画して参りたいとおもっておりますので、会員の皆様には是非多大なるご協力をお願いいたします。

また、梶谷前学長から自由な発想が不可欠であるといったことから「通機会」という名も変えてみてはどうでしょうかという提案をいただきました。そのときはちょっと驚きましたが、後日改めて考えますと、おもしろいかもと思いはじめております。さらに、同期の友人から「電気通信大学技術士会」が今年度に発足したことを教えられ、通機会をOB

通機会だより第39号の主な内容

第9期 会長就任挨拶…1、第9回通機会総会開催報告…2、通機会会則…3、通機会第9期役員…4、総会参加者からの寄稿…4、UEC基金からのお願い…7、就職支援活動報告…7、第8期通機会決算・第9期通機会予算…8

等への広報も兼ねて幅広く情報共有するサロンのな場にできればと考えております。

私は、電通大を離れて30余年の間、通機会にほとんど参加することなく過ごしてきましたが、この度、縁あって会長という大任を仰せつかりました。通機会の発展に微力ではありますができる限りの努力をさせていただきますので、皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

第9回通機会総会開催報告

副会長 結城 宏信 (1989年卒)

2014年6月28日(土)、第9回通機会総会が電気通信大学東5号館341教室において開催されました。当日は天候はあまり優れませんでした、多くの方にご参加いただきすべてが滞りなく終了しましたので、その概要を報告致します。

功労賞授与

総会に先立って通機会功労賞が石川晴雄氏(1972年卒)へ贈られました。石川氏は長年に渡り学内幹事として活躍をされ、特に第4期(1994年～1998年)では副会長を務められるなど本会の活動に多大な貢献をされていることから、大学の定年を迎えられたの機に贈賞されたものです。石川氏には壇上で寺井一郎会長より賞状と副賞が手渡されました。

通常総会

通常総会は14:03に第8期副会長の下条誠氏(1973年卒)が開会を宣し、議長に松村隆氏(1987年卒)を選出して57名の出席のもとで議事が進行了ました。はじめに寺井一郎氏(1983年卒)より第8期会長退任の挨拶があり、続いて下条氏より第8期の活動報告が、金森哉吏氏(1987年卒)より第8期の会計報告が、上村拓人氏(1999年卒)より第8期の会計監査報告が行われました。これらの報告に対する質問や意見はなく、すべて満場一致で承認されました。次に役員改選に移り、山田實氏(1976年卒)が第9期会長に、三宅基夫氏(1985年卒)と川邊栄二



氏(1994年卒)が第9期監査に選出されました。この結果を受けて山田氏より会長就任の挨拶があり、副会長と学内幹事が指名されました。そして筆者より第9期は第8期の活動を踏襲したい旨と第8期からの申し送り事項である会費納入率の向上を目指したい旨が、金森氏より第9期の予算案が説明されました。これらもすべて満場一致で承認され、14:33に議長が閉会を宣し終了しました。

特別講演&パネルディスカッション

休憩をはさんで14:45から、3月に学長を退任された梶谷誠先生(1964年卒、学長顧問)による「本学の過去・現在・未来、コミュニケーションを基軸とするイノベーション」と題する講演が行われました。電通大が発展してきた歴史や機械系学科ができた経緯、通機会設立の趣旨、将来へ向けての提言などを教壇に立たれていたところと同じようにユーモアを交えながらわかりやすくお話いただきました。そしてその内容を引き継ぐ形で「OBからのメッセージ～電通大M科で学ぶこと～」と題するパネルディスカッションに入りました。寺井一郎氏(三愛電子工業)の「スペシャリストとジェネラリストについて～コミュニケーションが可能にする多様性の受容～」、上村拓人氏(トプコンテクノハウス)の「設備技術者の仕事とコミュニケーション 半導体の設備の設計～納入～運転と技術者のコミュニケーショ





ン」、紀井敏氏（1980年卒、Applied Robotics）の「28 Years of Aussie Life」という話題提供のあと、会場の学生から出された英語の学び方やキャリア教育科目と専門科目とのバランスについての質問をめぐり、活発な議論が予定の時間を超えて繰り広げられました。パネルディスカッションの終了時には参加者は86名に達していました。

懇親会

17:00からは場所を大学会館2階の生協食堂に移し、懇親会兼梶谷先生を囲む会が84名（OB・教員41名、学生43名）の参加者で開かれました。山田会長の挨拶と機械系学科1期生である大賀寿郎氏（1964年卒）による乾杯の発声で会が始まると、会場のあちらこちらに卒業生・現旧教員・学生が入り交じった談笑の輪が作られていきました。それはまさに本会が目指す「単なる卒業生のための同窓会ではない、卒業生・在学生・現旧教職員のコミュニティ」が実現された一つの形であったといえるでしょう。梶谷先生のスピーチや灰塚正次先生（1965年卒）、越智保雄先生の近況報告、坂田芳幸氏（1969年卒）からのUEC基金への寄附の呼び掛けなどをはさみながら会場の盛り上がりは一向に衰えを見せず、19:00過ぎにお開きとなりました。



通機会会則

第1章 総則

- 第1条 本会は通機会と称する。
- 第2条 本会は会員の連絡と親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会報その他の発行及び配布。
 2. 講演会、見学会、親睦会の開催。
 3. その他本会の目的を達成するのに必要な事業。
- 第4条 本会は事務所を電気通信大学知能機械工学科内におく。
- 第5条 この会則に必要な通則は幹事会にて決める。

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次の通りとする。
1. 電気通信大学通信機械工学科、機械工学科、機械工学第二学科、機械制御工学科、知能機械工学科の卒業生ならびに同専攻科もしくは同大学院同専攻の修了生。
 2. 電気通信大学知能機械工学科ならびに同大学院同専攻に在学する学生。
 3. 上記各学科もしくは専攻の現教職員及び旧教職員。
 4. その他幹事会で適当と認めたもの。

第3章 役員

- 第7条 本会に次の役員をおく。
- 会長1名、副会長2名、幹事 若干名、監査2名、クラス委員 各クラス1名。
- 第8条 会長及び監査は総会において会員中より選出される。
- 第9条 副会長及び幹事は会長が委嘱する。
- 第10条 クラス委員は各クラス毎に選出する。
- 第11条 会長は本会を代表し、副会長は会長を補佐する。
- 第12条 幹事は幹事会の議に沿って会務を処理する。
- 第13条 クラス委員は各クラスと幹事会との連絡を密にする。
- 第14条 監査は会務を監視し総会に報告する。
- 第15条 役員任期は次の通常総会までとする。

第4章 総会及び幹事会

- 第16条 本会の最高決議機関を総会とする。
第17条 総会はその議案、日時、場所を会員に周知したうえ会長が招集する。
第18条 総会の議事は出席者の過半数によってこれを決める。
第19条 通常総会は4年に1回開く。
第20条 会長が認めた時または、会員の50名以上から請求があった時は臨時総会を開く。
第21条 幹事会は会長が必要と認めた時に招集する。

第5章 会計

- 第22条 本会の経費は終身会費、寄付金、その他をもってこれにあてる。
第23条 本会の会計はその収支決算を通常総会において報告しなければならない。
第24条 終身会費は金壱万円とする。

第6章 付則

- 第25条 本会の会則の変更は総会の決議を必要とする。
第26条 本会則は昭和56年3月7日より施行する。

- 付記 平成2年6月23日一部改正。
付記 平成6年5月14日一部改正。
付記 平成14年5月18日一部改正。
付記 平成18年5月27日一部改正。
付記 平成22年6月26日一部改正。

通機会第9期役員

(2014～2017)

- 会長 山田 實 (76年)
副会長 中野 禅 (87年)、結城 宏信 (89年)
監査 三宅 基夫 (85年)、川邊 栄二 (94年)
〈学外幹事〉
1964年 大賀 寿郎
1965年 下河 利行、灰塚 正次
1969年 坂田 芳幸
1970年 島野 圭司、益田 正
1973年 中山 良一、丸田 芳幸
1974年 鈴木 喜一 1975年 金田 徳也
1976年 山田 實 1978年 狩集 二郎
1979年 中川 滋
1980年 宇野 英男、紀井 敏
1981年 瀧澤 正和 1982年 岸本 哲
1983年 寺井 一郎 1985年 三宅 基夫

- 1987年 中野 禅 1989年 植村 幸生
1992年 大串 浩司 1993年 伊藤 秀樹
1994年 川邊 栄二 2000年 牧山 高大
2001年 巻島 和好
2002年 大熊 俊司、木之本 剛
2004年 浅田 浩一 2005年 砂田 知範
2006年 茂木 俊輔 2007年 五十嵐 崇亮
2008年 森田 憲司 2009年 高久 雄一
2011年 菊池 隆
〈学内幹事〉
1964年 梶谷 誠
1972年 石川 晴雄
1973年 下条 誠
1987年 金森 哉吏 (会計)
松村 隆 (会員管理)
1989年 結城 宏信 (副会長・庶務)
1993年 森重 功一 (通機会だより)
2005年 田中 基康 (Web ページ)
※ 記載年は学部卒業年

通機会総会に出席して

紀井 敏 (1980年卒)

6月28日の通機会総会に参加しました。私事から当日午後2時からの総会には出席できず、梶谷先生の特別講演会の途中で会場に忍び込みました。

今回の総会では、パネルディスカッションのパネラーを仰せつかりました。パネラーは寺井さんと上村さんと私の三人、パネルディスカッションは「OBからのメッセージ～電通大M科で学ぶこと～」、特にコミュニケーションに関して発表しろとのこと、総会に向け何を話題に取り上げようかいろいろ考えました。

寺井さんと上村さんは、特にご自身の仕事上の経験・体験からお話をまとめられてました。

私の場合は、卒業後東京で数年働いた会社を退職し海外で生活を始めたという、ちょっと「奇異」な人生を送っていることでお鉢が回ってきたのではないかと感じましたので、「28years of Aussie Life」と題し自分の英語歴について、また在校生へのメッセージとしては海外で生活しながら感じていることを中心に発表しました。

1986年10月に一人でオーストラリアはシドニーに渡ってきてからもう28年近く、こちらの会社で技術職について27年になります。中学から大学2年まで英語がまるっきりだめな語学劣等生だった私が、語学必修が終わった大学3年から自分でやる気



になり、日本を飛び出しこちらの国で英語を使った生活を始め、今に至っています。東京にいる母からは「あんなに英語出来なかったのに、向こうでよく生きているわね」と、いまだにからかわれています。在校生の皆さん、特に「英語嫌い」の学生さんに何とでもなるんだと言いたく、大学時代の成績表（恥ずかしながら語学の成績はほとんど“可”）などを引っ張りだし、発表をまとめてみました。

皆の文化の背景がそれぞれ違う移民の国オーストラリアでの生活、来た当初はまるっきり一人ぼっちのように感じましたが、日本の家族・先生方・友人の援助や励まし、またこちらで出会った友達の助けで、この28年間何とかやって来ました。人間は一人では生きられない、どこにいても「人とのつながり」が大事ということを最近強く感じています。在校生へのメッセージとして、この「人とのつながり」から派生して「言葉は通じなくても気持ちは伝わる」「挨拶を大事に」等、取り上げました。「挨拶」はもうほとんど小学校の道徳授業のようですが、非常に大切に思っています。

与えられた10分間は非常に短く、はたして私の言いたかったことが全部伝わったかどうか不安ですが、自分の軌跡を振り返る良い機会でもあり、本当に楽しませていただきました。

短い時間でしたが学生さんとの話の中で、日本の



英語教育は「読み書き中心」と私が受けた教育とあまり変わっていないように感じ、大変残念に思いました。現状のシステムを根本から変革するのは非常に難しいのは分かりますが、ぜひ社会に出て使える英語を学校で教えてもらいたいと思います。

最近ネット上で今の学生さんはおとなしいという記事を読んだことがあります。質疑応答では在校生の皆さんの活発な意見に、驚きまた頼もしく思いました。

懇親会会場でも、通信機械工学科一期生の方々から現役の学生さんまで世代を超えてお話が出来ました。過去数年、通機会の幹事として毎年11月調布祭時期に開催される幹事会に出来る限り出席しており、大学を訪ねる機会は毎年最低一回はありますが、こうやって特に在学の学生さんとお話できる機会はなかなか無く、「若返り」できたと思っています。大学同期や1～2年違いの先輩・後輩と会う機会は多いですが、このような幅広い「縦」のつながりも貴重な体験でした。

最後になりましたが、このような機会を与えていただいた通機会に感謝するとともに、通機会そして目黒会・電通大の益々の発展を祈っております。

第9期も通機会幹事として。微力ながら通機会を外部から応援し続けることを確認しつつ、今回の総会に参加した感想とさせていただきます。

世代を跨いだ交流の場

知能機械工学科3年 小平 圭祐

今回、通機会総会、講演会、パネルディスカッション、懇親会に参加した学生という立場で寄稿させていただきます。はじめは、参加する予定ではなかったのですが、普段非常によく面倒を見ていただいている結城准教授のお誘いもあり、友人数人を誘い、出席することになりました。今では、参加できたことを非常に幸運だと感じています。今回の素晴らしい集まりを組織していただいたOBの方々、また参加した学生に感謝しています。

梶谷前学長の講演会では、電通大の歴史と将来を考え、コミュニケーションを基盤にしたイノベーションについてお話していただきました。電通大が掲げているコミュニケーション科学、狭い視野にとらわれず、広い教養を身に付けることの重要性を改めて理解しました。

パネルディスカッションでは、梶谷前学長が研究室を持っていたときの卒業生の方々がパネラーをされていました。パネラーの方々は、電通大を卒業後、



技術職に限らず、様々な方面で活躍している大先輩です。ここでは、ご自身のキャリアとコミュニケーションについて語っていただきました。未だに、大学での学びと実社会の繋がりが分からない自分にとって、先輩方の話は非常に参考になりました。自分が10年後何をしているのか、また大学在学中に何を準備しておくべきなのか、幾分か見えた気がします。

また、受動的に先輩方の話を聞いているだけでなく、普段抱えている疑問を友人と共にパネラーの先輩方に投げかけました。パネルディスカッションでは、私達の疑問に対する納得した答えを得ることはできませんでしたが、最後に参加した懇親会のときに、何人ものOBの方々に声をかけていただき、抱えている疑問に対して相談にのってもらえました。OBの方々は、大変に親身になって私達の話聞いてくれました。その姿勢には感銘を受けました。また、的確で心強い助言を与えてくれたことに非常に感謝しています。

今回の集まりを、私は純粋に楽しむことができました。しかし、ひとつ残念なことは、今回集まった学生の人数が少なかったことです。通機会は、OBと学生が交流を深めることができる貴重な場です。参加した学生の私からすると、非常にもったいないと思います。次回開催される4年後の集まりには、学



生が多く参加していることを期待しています。また、OBが私にしてくれたように、私がOBとして学生の役に立ってあげられればと思います。

通機会総会、講演会および懇親会を振り返って

知能機械工学科3年 齊藤 和行

今回の通機会総会、講演会および懇親会の存在は、普段お世話になっているM科の教員（結城宏信准教授）からお話を聞いて知りました。梶谷先生にも会うことが出来るということで、貴重な機会と思い、参加させていただきました。

総会、講演会と聞いて、学生が参加するには敷居が高すぎるイメージがありましたが、全くそんなことはありませんでした。むしろ、OBや教授の方々、学生が一体となって話し合うことができる数少ない体験をさせていただきました。自分の考えや意見を先生たちに伝えられる機会というのは、普段の大学生活では非常に少ないもので、自分から行動していく積極性というのは、とても大事だと感じました。

また、今回の懇親会兼梶谷先生を囲む会にも参加させていただきましたが、梶谷前学長は、専門に偏った考えを持つ傾向にある電通大にはコミュニケーションという要素をプラスすべきだという、電通大の先を見据えた考え方をもち、自然と人を引き付けるオーラを感じました。そのような学長の教え子の方々からも非常に今後のためになるお話を聞いて、充実した一日となりました。

私は今回の一日を通して、今後は学生もOBや教授の方々に混じって意見を述べ合い、知能機械工学科の輪をより活発なものにしていくべきだと思います。そのためには、学生も通機会に積極的に参加していくことが重要になるでしょう。これらのことを踏まえ私は今後、通機会やM科の情報に目を通し、可能な限りそれらの行事に積極的に参加したいと考えています。また、私からの希望としては、通機会のお知らせが、より学生の気づきやすい形で掲示していただけると嬉しく思います。



UEC基金へ寄付を!!

既にご案内のとおり、「電気通信大学 (UEC) 基金」が 2012 年に創設されました。2018 年度を迎える創立 100 周年を期して、大学の一層の発展のために、多様な研究者や企業が集う共同研究施設を備えた 100 周年キャンパスを創設したり、優秀な学生 (学部生、博士課程学生、留学生) を幅広く支援する給付型奨学金制度として、「UEC 基金スカラシップ」へと拡大整備したりします。そのための自立的財源として、この基金が重要な役割を果たします。

UEC 基金は、電通大を支援していただく個人や企業・団体の方々からの寄付によって運営されますが、なんとと言っても、卒業生や教職員の支援が必須であるとともに最大の力であることは論を待ちません。基金の目標金額は 10 億円ですが、2014 年 9 月現在で 747 件、50.3 百万円の状況にあり、未だゴールは遙か彼方です。まずは、基金にご協力いただける方の人数が 20 倍、30 倍となることを願っています。

通機会の皆様におかれては、電通大の未来に思いを馳せていただき、基金への継続的な協力 (寄付) をいただくとともに、所属企業等の卒業生や研究室、サークルの OB・OG 会などの仲間達を募っていただいたり、所属企業と電通大との共同研究などを通じた連携強化についてはご支援獲得の橋渡し役を担っていただいたりして、支援の輪を拡げていただくことを是非お願いします。

基金に関するお申し出やご質問、ご要望などは事務局までご連絡ください。

電気通信大学基金事務局

TEL : 042-443-5132 FAX : 042-499-4858

E-mail : kikin@office.uec.ac.jp

URL : <http://www.uec.ac.jp/kikin/>

訃報

本学名誉教授 水田拓道先生 (本学在職 : 昭和 51 年 10 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日) (享年 78 歳) には、平成 26 年 9 月 11 日 (木) に御逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。なお、9 月 16 日 (火) に通夜が、9 月 17 日 (水) に葬儀・告別式が執り行われました。

◇◇◇ 就職支援活動報告 ◇◇◇

平成 26 年度も、現場で活躍されている卒業生を講師としてお招きして、講演会を実施しました。

通機会就職支援 2014 「人生設計第一」

日時 : 平成 26 年 7 月 30 日 (水) 14:40-16:10

場所 : 東 5 号館 341 教室

題目 : ロボットからスマホまで

～ソニーの歩き方

講師 : 小池剛史氏 (1999 年卒業、2001 年修了)

ソニーモバイルコミュニケーションズ株式会社

Development Tokyo、ハードウェア部門

機構設計部 CAE/CE 課

在学中はロボメカ工場の 1 期生として活躍し、院生時代には、自ら企画したアイボ用アクセサリを販売して好評を得た。2001 年 4 月ソニー株式会社に入社し、エンタテインメントロボットカンパニーにて、QRIO (SDR-4X) 二足歩行ロボットの研究開発に従事。その後、ライフサイエンス分野での研究開発、ビデオカメラの機構設計担当、新規事業創出部門ではその設立および機械系のリサーチを担当し、タブレットの機構設計・熱設計担当を経て、現所属にてスマートフォン、タブレットの熱設計を担当。

講演の概要 :

- ・希望の仕事をするために何をしたか
- ・会社における開発とは、どのようなものか
- ・キャリアにおけるサバイバル、生き残るにはどうすればよいか

など、就職やキャリアの参考になるように、成功や失敗を交えた体験をお話ししていただいた。

学生の感想から :

「商品のデザインが優れている = デザインを実体化するメカ設計が優れている、ということに気がかされました。」

「やりたいことがあったらすぐ行動する姿勢が、すばらしいと思いました。」

訃報

本学准教授 長塩知之先生 (享年 46 歳) には、病氣療養中のところ、平成 26 年 11 月 19 日 (水) に御逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。なお、11 月 20 日 (木) に通夜が、11 月 21 日 (金) に葬儀・告別式が執り行われました。
